

# 松陽高生、仏紙面飾る



## 黒田清輝「若き芸術家」本場で研修 ゆかりの地

昨年12月、フランスのグレー・シユル・ロワン市を訪れた松陽高校（鹿児島市）の美術科生徒の研修がフランスの新聞で大きく取り上げられた。グレー市は、洋画家黒田清輝ゆかりの地で、記事は「若い芸術家たちにとって貴重な旅程」などと紹介している。海を越えて届いた思いがけないエール。生徒らの制作意欲をさらにかき立てている。

海外研修は昨年12月4～9日にあり、2年生38人がフランスの美術館などを訪問した。黒田が明治時代に留学したグレー市では中世の趣が残る街並みを入ケッチした。パリに留学した経験があり、研修にも同行した前村卓巨教諭（58）らの尽力で誕生した「黒田清輝通り」にも足を運んだ。

役場への表敬訪問の際に現地の記者から取材を受けた。記事では一行を「日本の南にあ

る鹿児島県の松陽高校の生徒」と紹介。生徒らのスケッチに触れ、「彼らの新しいインスピレーションに貢献するだろう」とつづられている。

日仏友好160周年に関連し、2019年2月にグレー市で開かれる鹿児島県海外派遣美術留学生の展覧会についても報じ、「才能に国境はないと証明した鹿児島の高校生たちの作品も展示される」とPRした。

研修に参加した久永伶央さんは「新聞に掲載されて驚いた。本場で学んだ技法に挑戦したい」。源川眞子さんは「現地では日本の留学生の作品も残されており、芸術を大事にする国だと感じた」と刺激を受けている様子だった。

前村教諭は「生徒たちは、芸術家を志す若者への期待を強く感じたと思う。将来フランスと日本の懸け橋になつてほしい」と期待を込めた。



⑤フランスの新聞に掲載された松陽高校美術科の2年生（鹿児島市福山町の松陽高校）松陽高校の研修の様子を報じるフランスの新聞